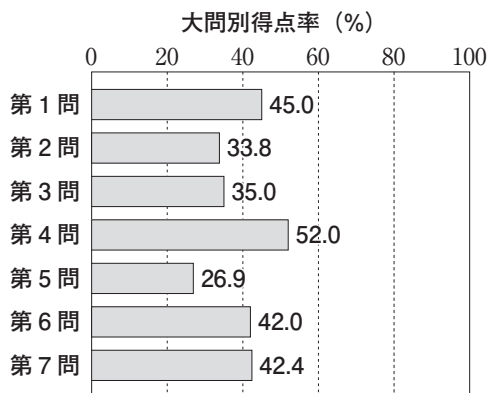
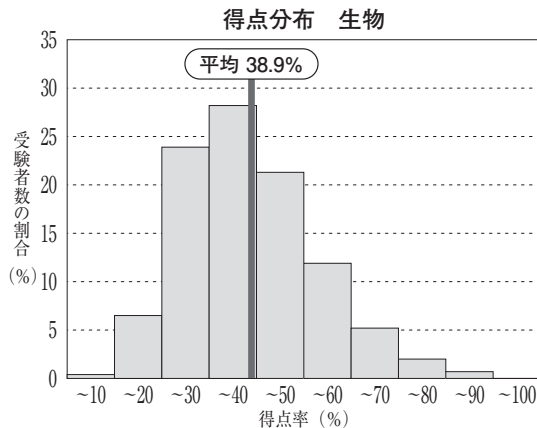


生 物

教科書の知識を確実に定着させよう。

I. 全体講評

第3回6月センター試験本番レベル模試生物の平均点は38.9点だった。大問数やマーク数、難易度、大問ごとの出題分野はセンター試験に準じた形をとり、第1問は生命現象と物質、第2問は生殖と発生、第3問は生物の環境応答、第4問は生態と環境、第5問は生物の進化と系統とした。分野に偏りがなく、教科書全体からまんべんなく出題している。また、第6問と第7問は生物の範囲から選択問題として出題した。今回の模試で平均に届かなかった大問、また他と比べて得点率の低い大問に重点をおいて、しっかりと復習をしておこう。



II. 大問別分析

選択問題（第6問・第7問）で得点率に差はみられなかった。

第1問 生命現象と物質

実験結果等から得られる情報を整理する訓練をしておこう。

Aは窒素同化に関する問題で、問1は基本的な知識問題、問2は根粒形成に関する実験考察問題とした。Bは遺伝暗号の解明に関する実験考察問題であった。実験考察問題では実験結果から得られる情報を整理して、可視化する（図や表などを作成する）訓練をしておこう。

第2問 生殖と発生

両生類の発生過程に関する知識を整理しておこう。

Aはカエルの発生過程に関する知識問題で、問1～問4の正答率はそれぞれ36.2%、20.2%、41.6%、20.7%であった。何が何に分化するかなど正確な知識が要求される。しっかり整理して知識を確実なものにしておこう。Bは連鎖と組換えに関する問題であった。ショウジョウバエの雌雄による配偶子形成の違い、組換え価と配偶子の位置関係などについて理解を深めておこう。

第3問 生物の環境応答

光周性、筋収縮について理解しよう。

Aは花芽形成にみられる光周性に関する問題で、基本的な知識問題であった。覚えていれば正答できるものばかりなので、確実に覚えていこう。問1～問3の正答率はそれぞれ33.7%、33.1%、32.1%であった。Bは骨格筋の構造と機能に関して出題した。問4は知識問題で、問5・問6は模式図をヒントにグラフを読み取る問題であった。筋収縮とエネルギー、筋原繊維とZ膜で構成される筋の構造と機能について理解を深めておこう。

第4問 生態と環境

個体群に関する知識を整理しておこう。

Aは群れに関する知識問題で、問1～問3の正答率はそれぞれ97.0%、42.1%、55.2%であり、第2問や第3問の知識問題に比べて高かった。Bは生存曲線に関する問題であった。今回は表や図を読み取り、情報を的確に整理する力が必要だったが、生存曲線の3つの型の特徴と具体例、生命表についてもまとめておこう。

第5問 生物の進化と系統

植物の進化と系統、生活環について知識を整理しておこう。

Aは植物の進化と系統に関する問題、Bはシダ植物の生活環に関する知識問題であった。生活環については、コケ植物、シダ植物、種子植物を対比して理解しよう。学習が遅れがちな分野なので、教科書を読むなどして少しずつ知識を身につけておこう。

第6問 光合成色素

色素の分離法と光合成生物がもっている色素の種類についてまとめておこう。

今回は薄層クロマトグラフィーを出題したが、ペーパークロマトグラフィーについても学習しておくことでより理解が深まる。

第7問 DNAの複製

DNAの複製に関する知識を整理しておこう。

DNAの複製のしくみやリーディング鎖とラギング鎖の違いなどについて正確に理解しよう。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆教科書の知識をしっかりと押さえることから始めよう。

センター試験では、教科書の全範囲からまんべんなく出題され、基本的な知識問題だけでなく、実験考察問題や計算問題などが出題されることもある。これらは、単なる知識の暗記だけでは対応できない。問題文を読みこなし、データを解析し、知識をもとに考察する力が必要となる。まずは、教科書の用語やグラフなど基本的な内容をしっかりと理解し、正確な知識を身につけることを目標に、学習を進めてほしい。無理なく高得点を狙えるよう、計画

的に生物の学習に取り組もう。

◆模試を活用しよう。

センター試験の形式や文章表現に十分慣れ、出題傾向やレベルをつかんでおくことは重要である。そのため、できるだけたくさん問題に取り組んでおくことが得点力のアップにつながる。ぜひ、模試や過去問を積極的に活用してほしい。